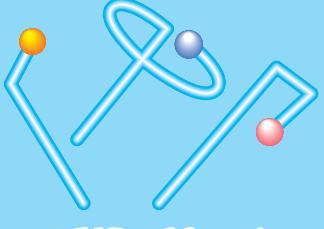


せん だん



希望・夢・愛

一人も泣く人のいない一人残らずの人が喜ぶ社会づくり



利用者表彰



リモートの様子



レクダンス

当法人では、法人が誕生した日を記念して『法人創立記念日の集い』を毎年開催しています。今年度は、6月25日（土）に創立36周年を迎え、Zoomを活用してオンラインで法人本部と全事業所を結び、利用者、職員約450名でお祝いしました。

集いは『福の山音頭』でにぎやかに幕を開け、利用者の代表が開会宣言した後、この一年間で亡くなられた関係者のご冥福を祈り、みんなで黙とうを捧げました。理事長からは、「しっかりと食べて、しっかりと活動し、しっかりと睡眠をとり、規則正しい生活を送りましょう。ギネスブックの5月の発表によると、現在の世界最高齢の方は112歳です。負けないようになんか元気に長生きします」と挨拶がありました。その後、職員および従業員の永年勤続表彰、各事業所利用者の頑張りをたたえる特別表彰では盛大な拍手が湧きました。レクリエーションや法人歌齊唱、レクダンス等で大いに盛り上がった後は、待ちに待った模擬店形式での昼食でした。新型コロナウイルス感染症の発生以来、自粛していましたが、市内の感染状況が落ち着いていたため、感染対策を徹底した中、関係者だけで久しぶりに模擬店形式での食事を楽しみました。

今回の『法人創立記念日の集い』に参加した利用者さんは、「他の事業所の人が画面に映つていて、久しぶりに顔が見られて嬉しかった。」「とても楽しかったよ。来年こそはみんなで集まりたいね。」と、たくさんの笑顔を見る事が出来ました。

毎年、『法人創立記念日の集い』を通じて職員は、今日があるのは多くの方の思いや願い、苦労、そして支えがあつてこそだということを心に刻んでいます。そして、私たち職員がその歴史を継承していくとともに、障がいのあるなしに関わらず、すべての人人がよろこぶ社会づくりの実現に向かへ、一人ひとりの思いや願いをうかがい、形にしていく一れつ会であり続けたいと心に強く思いました。

春日寮 管理者 延近 善浩

36th

法人創立記念日の集い



社会福祉法人 一れつ会



法人本部

〒720-2419 福山市加茂町字上加茂811番地
TEL : (084)972-5544 FAX : (084)972-5549 IP電話 : 050-3821-0740
HP : <https://www.ichiretsukai.jp> E-mail : itiretu@h2.dion.ne.jp

事業所一覧

せんだんの家（生活介護、就労継続支援B型）

いこいの家（施設入所支援、生活介護、短期入所、日中一時支援）

ウイズ（就労継続支援A型）

ほほえみ（生活介護）

居宅介護支援センター和らぎ（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援）

ほつと（一般相談支援事業、特定相談支援事業、障害児相談支援事業）

しんふおにい（生活介護、就労継続支援B型、日中一時支援）

春日寮（施設入所支援、生活介護） かすが（短期入所、日中一時支援）

青葉（生活介護、就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練（生活訓練））

いずみ（共同生活援助（グループホーム））

かがやき（放課後児童クラブ）

前号より、35周年記念インタビュー

式典の中で、理事長が挨拶を行い、私は事業報告をいたしました。最後の謝辞では、涙を流しながら話した記憶があります。

新型コロナウイルス感染症予防の取り組みについて

一れつ会では、現在も新型コロナウイルス感染症対策として感染リスクを最小限に抑えるための行動基準を定め、3密回避やマスクの着用、手洗いやうがい、手指消毒や検温、換気の実施はもちろんのこと、事業所館内や公用車の消毒を徹底するなどの取り組みを続けております。また、外出や行事等イベントの自粛も継続して行っており、職員をはじめとして、利用者や家族のみなさま、そして関係者のみなさまにご理解とご協力をいただきながら、感染防止に努めています。

一社会福祉法人の設立における経緯と認可施設せんだんの家の開所についてお聞かせ下さいー

小林相談役（創立者・前理事長）

今までの社会福祉法人の許認可権は国にありました。1987年からは知事に委譲されることになりました。本當はもう少し早く認可がおりると聞いておりましたが、他県の高齢者施設や障がい者施設で火災が起こり、多くの利用者が犠牲となり、スプリンクラーの設置が義務となりました。そのことにより見直しに時間が掛かり、半年伸びることになってしまいました。そうしたことでもう少し早く認可がおりると聞いておりました。その後、6月22日に受け取りました。その後、6月25日に登記を終え、社会福祉法人一れつ会が誕生しました。

社会福祉法人の設立と平行して進めていたのが認可施設の建設用地の取得です。当時、私が持っている夢や福祉に対する想いを実現する為に複数の施設を開設したいという想いがあり、将来展望を見込める土地の確保を希望しておりました。福山市駅家地区との交流が広がっておりましたので、駅家地区で土地を探しておりましたが、駅家地区に広い土地が見つかりませんでした。期限も迫る中で将来的に複数の施設整備が見込める可能性を感じられた現在の加茂地区に土地が見つかり、広

約40年を振り返り、節目となつた出来事や当時の思い等を連載（4回）でご紹介しています。前号での第2回目は、創立者である小林義和が神戸から故郷の神辺に戻り、せんだんの家の無認可時代から法人認可に至るまでの話を掲載いたしました。第3回目となる今号では、社会福祉法人設立と加茂地区での事業展開におけるそれの思いや願い、思い出についてご紹介します。

島県に照会を行いました。この土地は農業振興指定区域であり調整区域だとわかり、その区域の除外申請や調整区域での開発許可等には法的にも多くの規制があり、ひとつずつ根気よく関係機関や関係者と協議を行いながら難題を乗り越えていました。手続きの条件としては社会福祉法人格が必要とされることが多くあります。社会福祉法人の設立が出来た事によって大きく前進していました。またこうした手続き以外に地元の水利関係等の担当者の許可が必要な手続きもあり、地元の関係者に何度もお願いに参りました。

最終的に許可を頂戴しましたが、その多くは人とのつながりやご縁によって助けられたことで徐々に前進していました。その後、土地の確保も出来、施設の建設工事が進められ、1988（昭和63）年4月に知的障害者通所授産施設「せんだんの家」が開所出来ました。落成式では会場の作業場に入れないので程の人達に集まつていいただき、広島県、福山市をはじめとした行政関係者、利用者、家族、地域の方、県内外の福祉関係者の皆さん等、本当に多くの方に来ていただきました。

せんだんの家建設地（福山市加茂町）




「展望も抜群、完成したせんだんの家」
〔1988（昭和63）年4月6日　中国新聞抜粋〕



せんだんの家建築工事着工
〔1987（昭和62）年10月〕

肺に腫瘍が見つかり、手術をすることになり、入所施設の整備に向けた動きは一時ストップしてしまいました。退院後体力も徐々に回復し、再度ご家族の方の要望に応えたいと気力を振りしぶり、3年後には入所施設が開所出来るよう再び整備に向けた動きを加速しました。

せんだんの家に隣接した建設予定地も確保して、補助金の決定も受けました。建設工事に入る前には遺跡の有無を事前調査しなければなりませんでした。数か所の場所を選定して試掘すると遺跡らしいものが発掘されました。そのため広島県・福山市教育委員会文化課の本格的な調査が始まり、それが8世紀後半の製鉄炉の跡と確認され、備後の製鉄史を知る貴重な資料ということで、入所施設の建設が中止することになりました。

いこいの家のオーブン時の職員は入所施設での勤務経験が余りない若い職員集団でした。私は絶対に部屋に鍵をかけたり、虐待行為があるような支援は厳禁ということ、何より大事なことは利用者との人間関係を作る（信頼関係を得ること）だと話しました。それから「げんき（元気）・こんき（根気）・のんき（呑気）」といった三氣も、望ましい職員になるためには必要になるということも繰り返し語りました。開所後間もない頃は、夜間



「多くの人にぎわった第1回せんだんの家夏まつり」
[1988(昭和63)年8月25日 中国新聞抜粹]

せんだんの家がオーブンして最初の保護者会で「立派な施設が完成し喜んでいます。通所施設だけでは親亡き後のことを考えると不安や心配があつて、ずっとお世話をしていただけの入所施設が欲しいんです。」という切実な声が聞かれます。通所施設だけでは親亡き後のこと

その当時、遺跡に関心がある地域の方をはじめ多くの方が見学に来られました。それから建設工事は加速していきました。定員に達しているため、定員が空かなければ利用出来ない状況や福山市内の人達は東広島市、三次市等の遠方の施設に入所している状況があり、面会に行きたくても大変なんです。福山市に入所施設が出来ると大変有難い」という声も聞きました。そのためせんだんの家が開所して半年後ぐらいから入所施設の整備に動き出ことになりました。

小林相談役（創立者・前理事長）

せんだんの家がオーブンして最初の保護者会で「立派な施設が完成し喜んでいます。通所施設だけでは親亡き後のことを考えると不安や心配があつて、ずっとお世話をしていただけの入所施設が欲しいんです。」という切実な声が聞かれます。通所施設だけでは親亡き後のこと

その当時、遺跡に関心がある地域の方をはじめ多くの方が見学に来られました。それから建設工事は加速していきました。定員に達しているため、定員が空かなければ利用出来ない状況や福山市内の人達は東広島市、三次市等の遠方の施設に入所している状況があり、面会に行きたくても大変なんです。福山市に入所施設が出来ると大変有難い」という声も聞きました。そのためせんだんの家が開所して半年後ぐらいから入所施設の整備に動き出ことになりました。

ーいこいの家の開所の経緯についてお聞かせ下さいー

小林相談役（創立者・前理事長）

法人の出発として開所したせんだんの家では、一般就労に向けた取り組みに力を入れていました。企業においても障がい者雇用の促進が徐々に進められるようになり、就労に結びついた人もおりましたが、県の入所者の措置の担当者から、希望者の多くが障がいの重い人たちであるために、スタートから50名を一度に受け入れなくとも段階的に利用者を受け入れたかどうかという助言もありました。その都度その都度受け入れ体制を組み直すより一度決めたことをやりながら見直していく方が混乱は少ないと判断して、4

月1日より定員いっぱいの50名を受け入れることにして、1994(平成6)年4月に入所更生施設いこいの家を開所しました。家で生活が出来る人はせんだんの家に通所し、家で生活が出来ない人・利用者が無断で外出し、全職員が捜索するといつたことが続きました。職員は



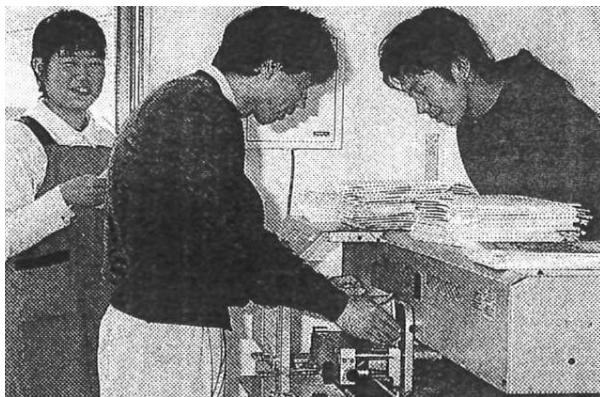
いこいの家落成式
[1994(平成6)年3月]

に試行錯誤し、一生懸命に頑張っていました。今は夜間に職員を呼び出すようなことはまったくなくなり、落ち着いた日々を過ごしております。

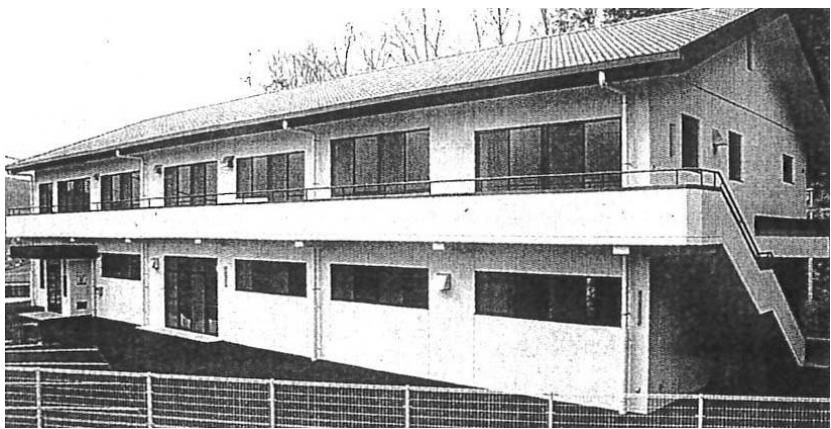
今日は夜間に職員を呼び出すようなことはまったくなくなり、落ち着いた日々を過ごしております。

利用者が無断で外出し、全職員が捜索するといつたことが続きました。職員は

大変な思いをしながら毎日利用者のためとして厳しい時代でした。私には、働く力があるのに就労に結びつかない人達を雇用して福祉サービスを提供し、社会自立をしてもらえるようにしたいという思いがありました。実績があれば、法人が単独で福祉工場を立ち上げても良いとの



「職員の指導を受けながら
印刷の仕事に励む『ウイズ』従業員さん」
〔1999（平成11）年3月18日 中国新聞抜粋〕



「加茂町にお目見えした市内で初の福祉工場「ウイズ」」
〔1999（平成11）年3月18日 中国新聞抜粋〕



「充実した設備で重度知的障害者を支援する
デイサービスセンター「ほほえみ」」
〔2002（平成14）年3月3日 山陽新聞抜粋〕

な役割を担えるようにとも考えました。その後、障がいの重い人・生活全般に介護が必要な人について、生き甲斐の場を造ることが必要だと思うようになりました。制度上では通所更生施設も考えられました。また、入所更生施設の空き部屋を活用して利用してもらう『ミニデイサービス（ミニデイ）』という形での支援も考えておりました。いろいろと検討している中で、国の担当者からは『ミニデイ』ではなく、デイサービスセンターにしてはどうかという話があり、私もいこいの家の中で『ミニデイ』をオープンするより新しい建物を建て、広いスペースで取り組む方が良いと思っておりましたので、デイサービスセンターを整備することにしました。その構想は全国的にはまだ数少ない施設整備であったので、とても苦労しました。利用される方は、経管栄養が必要な方、日常生活全般で常に多くの支援が必要な方、車椅子利用者等の介護度の高い人達が中心に利用されると考えておりました。利用する人にとって利用しやすい環境を考え、ト

最終回となる次号では、三吉地区や春日地区、地域生活支援での事業展開の思いや願い、そして、法人35周年を迎え、職員に伝えたいことについて紹介いたし

いれや浴室、廊下等を広くしたいと思いました。入浴サービスの提供には、椅子に座ったまま入浴出来る特殊浴槽設備なら利用者も職員も安心して利用出来ると考え、最新型の特殊浴槽を導入することにしました。2002（平成14）年4月にデイサービスセンター「ほほえみ」を開所しました。その時考えた設備環境は、デイサービス事業から現制度である生活介護事業に移行しても利用者や職員に快適な環境として喜ばれています。特に自宅で入浴が難しい方にこの入浴設備は大変喜んでいたりしております。日中は運動・創作・音楽・園芸・社会参加等、利用者一人ひとりに合った支援メニューを提供し、やりがいや楽しみを見つけられるような支援の提供に努めています。

ありがとうございました

（2022.4～2022.6）
(順不同)

●ご寄付
・上 瞳二様
・岩木 良太様
●御祝い
・岩森 逸美様

・金尾 芳和様
・近藤 恭一様
・神田 浩志様
・岩田 人志様
・田邊 敦哉様

●ご寄贈
・尾崎 あゆみ様
・林 邦子様
・阿部 尚子様
・土屋 康彦様

・桑田恵美子様
・得能 公平様
・重政 友孝様

実習生・就業体験実習・職場体験・ボランティア・見学 (2022.4～2022.6)

●実習生

（加茂地区） · 穴吹国際みらい専門学校様 1名
（三吉地区） · 穴吹国際みらい専門学校様 2名

●ボランティア (三吉地区)

· 日下 清美様

2021(令和3)年度 社会福祉法人 一れつ会 決算報告書 (令和4年3月31日現在)

2021年度 社会福祉法人一れつ会 決算報告書

貸借対照表

令和4年 3月 31日現在

(単位:円)

資産の部	当年度末	負債の部	当年度末
流动資産	694,448,273	流动負債	223,950,443
現金預金	445,021,293	事業未払金	122,817,827
事業未収金	232,884,001	1年以内返済予定設備資金借入金	7,910,000
未収補助金	9,628,909	預り金	33,375
商品・製品	3,952,042	職員預り金	183,433
仕掛品	65,191	前受金	0
原材料	2,133,831	賞与引当金	93,005,808
立替金	3,366	固定負債	86,811,700
前払費用	0	設備資金借入金	25,840,000
前払費用(非資金)	727,040	退職給付引当金	60,971,700
仮払金	32,600	負債の部合計	310,762,143
固定資産	3,336,513,494	純資産の部	
基本財産	1,779,767,645	基本金	441,059,599
土地	656,232,569	1号基本金	333,176,937
建物	1,123,535,076	2号基本金	103,532,662
その他の固定資産	1,556,745,849	3号基本金	4,350,000
建物	64,428,588	国庫補助金等特別積立金	663,779,059
構築物	11,553,010	その他の積立金	1,359,744,000
機械及び装置	7,833,412	人件費積立金	216,000,000
車輌運搬具	2,283,908	修繕費積立金	137,500,000
器具及び備品	48,021,105	備品等購入積立金	107,500,000
建設仮勘定	0	施設整備等積立金	892,000,000
ソフトウェア	0	工賃変動積立金	2,373,000
その他の固定資産	861,880	設備等整備積立金	4,371,000
退職給付引当資産	60,971,700	次期繰越活動増減差額	1,255,616,966
長期前払費用	1,048,246	(うち当期活動増減差額)	52,543,197
人件費積立資産	216,000,000	純資産の部合計	3,720,199,624
修繕費積立資産	137,500,000		
備品等購入積立資産	107,500,000		
施設整備等積立資産	892,000,000		
工賃変動積立資産	2,373,000		
設備等整備積立資産	4,371,000		
資産の部合計	4,030,961,767	負債及び純資産の部合計	4,030,961,767

資金収支計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		当年度決算額
事業活動による収支	就労支援事業収入	80,639,914
	障害福祉サービス等事業収入	1,432,814,899
	その他の事業収入	13,306,007
	借入金利息補助金収入	9,000
	経常経費寄附金収入	1,055,528
	受取利息配当金収入	2,317,219
	その他の収入	45,866,031
	事業活動収入計 (1)	1,576,008,598
	人件費支出	1,193,323,536
	事業費支出	122,167,666
支 出	事務費支出	78,571,762
	就労支援事業支出	81,003,009
	その他の事業支出	5,301,167
	支払利息支出	466,720
	その他の支出	16,384,877
	事業活動支出計 (2)	1,497,218,737
	事業活動資金取支差額(3)=(1)-(2)	78,789,861
	受取施設整備等補助金収入	0
	施設整備等収入計 (4)	0
	設備資金借入金元金償還支出	9,450,000
施設整備等	固定資産取得支出	72,460,050
	施設整備等支出計 (5)	81,910,050
	施設整備等資金取支差額(6)=(4)-(5)	△81,910,050
	受取積立資産取崩収入	1,518,000
	その他の活動収入計(7)	1,518,000
	積立資産支出	7,407,600
	その他の活動支出計(8)	7,407,600
	その他の活動資金取支差額(9)=(7)-(8)	△5,889,600
	予備費支出 (10)	-
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△9,009,789
その他の活動	前期末支払資金残高(12)	573,545,323
	当期末支払資金残高(11)+(12)	564,535,534

事業活動計算書

(自) 令和3年4月1日 (至) 令和4年3月31日 (単位:円)

勘定科目		当年度決算額
サービス活動増減の部	就労支援事業収益	80,639,914
	障害福祉サービス等事業収益	1,432,814,899
	その他の事業収益	13,306,007
	経常経費寄附金収益	1,055,530
	その他の収益	6,588,100
	サービス活動収益計 (1)	1,534,404,450
	人件費	1,197,372,007
	事業費	122,166,768
	事務費	78,223,552
	就労支援事業費用	78,566,681
費用	その他の事業費用	5,301,167
	減価償却費	62,664,427
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△36,311,067
	その他の費用	296,100
	サービス活動費用計 (2)	1,508,279,635
	サービス活動増減差額 (3)=(1)-(2)	26,124,815
	借入金利息補助金収益	9,000
	受取利息配当金収益	2,317,219
	その他のサービス活動外収益	40,795,931
	サービス活動外収益計 (4)	43,122,150
サービス活動外増減の部	支払利息	466,720
	その他のサービス活動外費用	16,089,677
	サービス活動外費用計 (5)	16,556,397
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	26,565,753
	経常増減差額 (7)=(3)+(6)	52,690,568
	施設整備等補助金収益	0
	その他の特別収益	0
	特別収益計 (8)	0
	固定資産売却損・処分損	224,871
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△77,500
特別増減の部	国庫補助金等特別積立金積立額	0
	その他の特別損失	0
	特別費用計 (9)	147,371
	特別増減差額 (10)=(8)-(9)	△147,371
	当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)	52,543,197
	前期繰越活動増減差額 (12)	1,204,325,769
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,256,868,966
	基本金取崩額 (14)	0
	その他の積立金取崩額 (15)	0
	その他の積立金積立額 (16)	1,252,000
費用	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,255,616,966

地域出張相談室

この度、当法人において地域のみなさまが身近で気軽に相談できる場を作れないかと考え、
フジグラン神辺店 2階『手づくりの店ほっと』にて、無料出張相談室を企画しました。

高齢・障がい・子ども・子育て・家族・生活困窮のことなど、「どこに相談すればいいかわからない…」、「身近な人には相談しづらい…」、「話し相手がいなくて…」など、悩んでおられる方は、おひとりで悩まないでお気軽にご相談ください！

日 時 2022年9月1日(木)～15日(木) ※火、木、土のみ開催
火曜日、土曜日…10:00～12:00、木曜日…13:00～15:00

場 所 フジグラン神辺店 2階
『手づくりの店ほっと』相談室

お問い合わせ先

社会福祉法人一れつ会 相談支援事業所ほっと
☎084-972-5544 (IP) 050-3821-0740

※事前予約可 ご予約いただいた方を優先させていただきます。

※新型コロナウイルス感染対策により、事前の告知なしで本企画を中止する場合もありますので、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。



一れつ友の会の会員になってください

一れつ友の会は、社会福祉法人「一れつ会」が、運営する施設や将来計画している施設の運営に協力し、心身障がい者福祉の向上と福祉教育を通して、互いに助け合いの社会づくりを目的としています。

活動推進のために、この会の目的をご理解頂き、友の会への新加入・ご更新をお願いいたします。

○普通会員 1口 500円／月 ○協力会員 お気持ちに応じて

お問い合わせ・お申し込みは一れつ友の会（せんだんの家内）までお願い致します。TEL (084) 972-5544



「QRコード」から
過去の地域だよりを
ご覧いただけます。